

図工・美術部会研究計画

I. 研究主題

子どもが表現する喜びを味わうための資質・能力の育成

～知識・技能を身に付け、発想・構想を広げることができる授業づくりの工夫～

II. 研究目的

1. 研究経過

年次	年度	研究の概要	研究の成果
59	R6	- 子どもが自ら獲得する知識・技能等について、「ものの関わり」や「人との関わり」を通して、その幅を広げる活動を取り入れることによって資質・能力が育成されるといった可能性を検証 - 主体的・能動的に知識や技能を身に付けさせるためには、どのような指導の工夫や手立てが必要か、その具体策の明確化	知識・技能を身に付けさせる指導の工夫や手立てについて共有でき、今後に生かす手がかりを得ることができた。
60	R7	- 学年の指導計画、義務教育9年間を見通した造形活動の確認 - 子どもが自ら獲得する知識・技能等について、「ものの関わり」や「人との関わり」を通して、その幅を広げる活動を取り入れることによって資質・能力が育成されるといった可能性を検証 - 主体的・能動的に知識や技能を身に付けさせるためには、どのような指導の工夫や手立てが必要か、その具体策の明確化	知識・技能を身に付けさせる指導の工夫や手立てについて、昨年度以上に小中で共有することができた。今後も小中のつながりを意識して、図工・美術での対話の在り方等、研修を深め、実践していくことが大切である。

2. 主題設定の理由

60年次と61年次は、58年次と59年次における「子どもが表現する喜びを味わうための資質・能力の育成」という研究主題を踏襲し、「知識・技能を身に付け、発想や構想を広げることができる授業づくりの工夫」という副題を設定した。昨年度の研究協議の際、レポートの後段に「困っていること」を記載してもらい、交流を行った。図工科・美術科を専門とする教師ばかりではないため、日々の指導で多くの悩みを抱えている現状を知り共有することができた。また、課題の一つとして題材の指導計画の中だけではなく、年間の指導計画、さらには義務教育9年間を見通した造形活動（共通事項を踏まえて、知識・技能をどの学年、どの場面で、どのように指導していくか）について、小中のつながりを意識する必要性が挙げられた。研究協議の際には、小学校と中学校の教師を同じグループに配置することで相互の理解を深めることができたが、今後、一層つながりを密なものにしていくことが求められる。60年次、61年次は、研究主題を据え置き、大きな変更を加えず、色々な先生方にわかりやすく、取り組みやすい内容で研究を進めていく。「知識・技能を身に付けること」「発想・構想を広げること」という基本を押さえた授業づくりをしていくことで子どもたちが表現する喜びを味わうための資質能力の育成を図っていききたい。

60年次では、知識・技能にフォーカスし、9年間を見通した指導を意識し、主体的・能動的に知識や技能

を身に付けさせるためには、どのような指導の工夫や手立てが必要か、その具体策を明確にしていくことを検証してきた。検証は第二次研究協議会での公開授業や実践レポートの交流、各市町村グループでの取組を通して行われ、充実した研究協議となった。知識・技能を身に付けさせる指導の工夫や手立てについて、昨年度以上に小中での共有ができ、今後に生かす手がかりを得ることができた点が大きな成果といえる。今後はその具体策を明確にしていくことを進めるとともに、小中のつながりを意識して、図工・美術における対話活動の在り方等研修を深め、実践していくことが大切である。

61 年次では、重点を知識・技能の習得から創造的な発想や構想を広げる学びにシフトし、対話的な学びを通して、子どもが学習の課題を捉え、つくりたいもののイメージを明確にもてるようにする手立ての考察をしていく。

3. 研究仮説

自ら進んで技能を身に付け、作品への思いを伝え合う等、主体的・能動的に人やものに関わる学びによって、表現する喜びを味わうことができるだろう。

Ⅲ. 研究内容

研 究 主 題	研 究 内 容	R7年度 重点	R8年度 重点
子どもが表現する喜びを味わうための資質・能力の育成 ～知識・技能を身に付け、発想・構想を広げることができる授業づくりの工夫～	1. 主体性や能動性を重視して育む知識・技能	◎	
	2. 創造的な発想や構想を広げる対話的な学び		◎
	3. 表現・鑑賞を通して育む自分の見方や感じ方を深める力	○	○

1. 主体性や能動性を重視して育む知識・技能

- 学年の年間指導計画，義務教育9年間を見通した造形活動
 - ・共通事項を踏まえて，知識・技能をどの学年，どの場面で，どのように指導していくか（系統の確認）
- 子どもの思いを実現するために必要な知識や技能が身に付くようにする
 - ・子どもが題材ごとの学びのつながりを意識できる指導の工夫（既習事項の活用）
 - ・技能を身に付けたことによる主体的な行為を促す支援（用具等の安全面での配慮，子ども自身が用具に「慣れる」ための手立て）
 - ・子どもが試しながら自ら発見し，相互に学び合う場の工夫（活動の全過程を通して，「つくり・つくりかえ・つくる」の繰り返し） ＊下記2との関連を図る

2. 創造的な発想や構想を広げる対話的な学び（本年度の重点）

- 対話的な学びを通して，子どもが学習の課題を捉え，つくりたいもののイメージを明確にもてるようにする
 - ・子どもの発達段階や興味・関心を捉えた授業の工夫
 - ・互いの活動を見合いながら，考えたことを伝え合ったり感じたことを話し合ったりする場の設定
 - ・豊かな発想を促すための働きかけ等の工夫
 - ・生活や社会，地域・土地の特性を生かした題材設定の工夫

3. 表現・鑑賞を通して育む自分の見方や感じ方を深める力

●満足感や達成感がもてる表現活動

→子どもが、つくっているものやつくったもの、関わったものに価値を見いだせるようにする

- ・子どもの達成感を受け止める手立て、その後の指導への生かし方の工夫
- ・子どもの満足感を大事にする作品の扱い方（制作途中の鑑賞や交流、展示、返却方法等の工夫）

●思いを読み取り、伝える鑑賞活動

→子どもが、造形作品や身の回りにある場所やものの価値に気づき、大切に思える心を育む

- ・自他の作品を媒体として、各自の思いを伝え合う活動の工夫（対話的な学び（制作途中の対話））
- ・美術作品に触れ、感じたことを伝え合う活動（対話型鑑賞等の実践と検証）

4. 共通事項

●環境づくりの工夫

→上記3項を実現させるための環境づくりを行う

- ・教育課程（カリキュラム）や用具、人的環境を充実させる工夫等
- ・子どもの意欲に結び付く教室環境、展示環境（ディスプレイ）のつくり方

5. 子どもに育みたい力

評価の観点	具体的な児童・生徒の動き
知識及び技能	えらぶ 決める バランスをとる ためす 創造する
思考力、判断力、表現力等	広げる 深める 見通す 比べる 感じ取る 受け入れる 練る
学びに向かう力、人間性等	楽しむ 進んで活動する 味わう 満足する

*児童・生徒の実態と、題材のねらいと関連させ、育みたい力を押さえた上で、授業づくりを進める

6. 教育課程研究

令和7年度は研究協議会のレポート交流の際に、『小学校教育課程追補編』及び『中学校教育課程追補編』に基づいた授業内容について課題点等を話し合った。令和8年度は、出された課題点を意識しながら、工夫・改善された授業の実践及び評価を行う。

IV. 研究方法

(1) 第二次研究協議会

- ① 研究授業…小学校低学年，高学年，中学校各1学年で行うことを基本とする。
- ② 全体会…本次研究について，中心グループでの研究推進について説明を行う。
- ③ 分科会…研究授業の話し合いと実践レポート及び作品交流を行う。小・中学校間の交流を深める。
- ④ 実践アトラクション…各市町村よりもち寄った実践の紹介及び実技研修を行う。

(2) 理論研修

研究主題に迫るための理論研修会を開催する。

(3) 実技研修（実践アトラクション）

材料・用具・技法・指導法等，指導力の向上を図ることのできる場として，実技研修を開催する。

(4) 「石狩の作品集」の発行

子どもの作品から受けとめるべき内容とその視点について研修を深めるための資料として発行（データ配信）する。

(5) 部会だよりの発行

研究員は資料・情報を提供し、日々の研究実践に役立てるよう必要に応じて部会だよりを発行する。

V. 研究体制と方法

(1) 各市町村

- ① 中心サークルとなった市町村は、授業づくりを中心にして共同研究を進める。
- ② 中心サークル以外の市町村は、独自の研究授業や実践交流での内容・成果・課題の共同研究化を進める。

(2) 部会員

① 児童生徒の作品の収集・保存

子どものコメント（想いやアピール等）と担任の受け止め方とともに作品資料をまとめておく。（制作中の写真やVTR、資料等もあるとよい）

② 実践レポートの作成

子どもの作品や、実践の様子等を図や写真を盛り込みながら、取組内容が伝わるものを作成する。

VI 年間計画

4月	○専門部会第一次研究協議会 ○役員・推進委員研修会	・体制確認と業務分担 ・研究内容と方法の確認
5月	○役員・推進委員研修会	・研究方法の具体化
6月	○教育課程研究委員研修会	・教育課程改善に向けた指導案作成
7月	○役員・推進委員研修会 ○「石狩の作品集」	・第二次研究協議会の実施要領検討 ・編集方針の確認
8月	○理論研修会	・講師による研修会
9月	○第二次研究協議会指導案検討役員研修会 ○推進委員研修会	・授業研の授業案検討 ・第二次研究協議会の内容詳細 ・実践レポート提出（データ）
10月	○事前研修会 ◎専門部会第二次研究協議会	・事後研・分科会の内容協議 ※ 実技研修会も含めて企画の予定
11月	○教育課程研究委員研修会 ○「石狩の作品集」 ○役員・推進委員研修会	・教育課程の工夫・改善に向けての取組等 ・作品集データ公開に向けての編集作業 ・本年度の研究の成果と課題のまとめ
12月		
1月	○役員・推進委員研修会	・次年度研究計画の提示
2月		

（文責 大槻 力也）